歴史と文化をめぐる

士別
再発見マップ

士別市は北海道北部の中央に位置し、最北の大河「天塩川」の上流域にあたる地域です。アイヌ語で「本当の川」を意味する「シペツ〔si-pet〕」が町の名前の由来となっています。

士別は明治32（1899）年、最北で最後の屯田兵によって「開拓」が始められた町です。

屯田兵がこの土地に来る以前は、北海道の先住民族であるアイヌ民族が生活を営んでおり、安政4（1857）年に、「北海道」の名付け親である松浦武四郎がこの地を訪れ、アイヌ民族と交流をしたことが、武四郎の「天塩日誌」には記されています。

開拓から55年後の昭和29（1954）年に士別町、上士別村、多寄村、温根別村4つの町村が合併して士別市となり、平成17（2005）年には、朝日町と合併し、現在の士別市が誕生しました。

開拓の鍬が下ろされて以降、林業や農業、デンプン産業、めん羊、文化芸術、スポーツなど、様々な分野でまちづくりが取り組まれてきました。

★ スマートフォンで二次元バーコードを読み取ると、地図アプリで詳細な位置を知ることができます。
★ 現地を見学される際には、交通ルールを遵守し、地元の方のご迷惑にならないよう、ご配慮ください。
★ 施設内部の見学については、各所事前にご確認ください。
★ 冬期間は見学できない場所や看板等がしまわれている場所もあります。

1 温根別北線駅逓所跡 （標柱）
おんねべつきたせんえきていじょあと

各地に設置された駅逓は、旅宿や人馬継立、郵便継立を行い、当時の交通に大きな役割を果たしました。

2 温根別ダム
おんねべつだむ

昭和61（1986）年にダムが建設される以前には、伊文のまちがあり、一帯は「伊文コタン」とも呼ばれていました。

3 日向渡船場跡 （標柱）
ひなたどせんじょうあと

かつてこの場所には天塩川が流れており、舟に乗って渡っていました。日向地区から対岸の学校へ通う子どもたちなどが利用していました。

4 粘土客土発祥之地碑 （石碑）
ねんどきゃくどはっしょうのちひ

富生藤吉は、明治41（1908）年、泥炭地のために農業に適さなかった多寄で粘土客土という土地改良法を発見し、現在の農業の基盤を作り上げました。

5 多寄遺跡 （看板）
たよろいせき

約6000年前の縄文時代の遺跡。回転押型文土器や櫛目式文土器などの土器のほか、各種石器類が見つかっています。

松浦武四郎宿営地（リイチャニ）
6 ケネフチ （看板）
まつうらたけしろうしゅくえいち（りいちゃに）・けねふち

安政4(1857)年、天塩川の調査を行った松浦武四郎の記録には、この地でシベツ最初の1泊をして、その際に蚊の多さに苦労したとされています。

7 祖神の松
そしんのまつ

樹齢1千数百年といわれるイチイの木。古くから林業関係者に山の守り神としてあがめられてきました。市指定文化財。

8 大内渡船場跡
おおうちとせんじょうあと

明治31（1898）年、大内勇記は屯田兵の移住に先立って士別に入り、この場所で渡船業を営みました。

9 士別市立博物館・公会堂展示館
しべつしりつはくぶつかん・こうかいどうてんじかん

郷土の歴史・自然・文化を紹介している地域の総合博物館。展示館として復元した公会堂が隣接しています。

屯田兵屋
とんでんへいおく

屯田兵屋は屯田兵とその家族が住んでいた住居で、兵屋番号67番の川津万次郎氏宅を移築、復元した建物です。中では当時の生活を再現した展示が見られます。市指定文化財。

10 室積徂春句碑 （句碑）
むろづみそしゅんくひ

明治～昭和の俳人で、士別の俳壇にも大きな影響を与えました。没後の昭和35（1960）年、徂春を慕い、多数の句碑が建てられました。

松浦武四郎宿営地（サッテクベツ）
11 村長ニシパコロ居住跡 （看板・標柱）
まつうらたけしろうしゅくえいち（さってくべつ）
そんちょうにしぱころきょじゅうあと

安政4(1857)年、天塩川の調査を行った松浦武四郎は、ここで2度宿泊して、アイヌ民族と酒宴を開いたとされています。

12 菊田先生頌徳碑 （石碑）
きくたせんせいしょうとくひ

菊田佐市は大正8（1919）年に川西尋常小学校の校長に赴任。学校教育の他にも、川西めん羊組合の設立に尽力するなど、産業開発にも貢献しました。

13 上士別遺跡 （看板・標柱）
かみしべついせき

約6000年前の縄文時代の遺跡。夏場の狩猟時期に使われていたと推測される住居の遺構が見つかっています。市指定文化財。

14 松浦武四郎天塩川探検の地 （看板）
まつうらたけしろうてしおがわたんけんのち

ここに松浦武四郎が訪れた際には、アイヌ民族から、以前にもここに訪れた和人がいたという話を聞きました。

15 トナイタイベ （看板）
とないたいべ

安政4(1857)年、天塩川の調査を行った松浦武四郎の記録には、ここでザリガニの串焼きをアイヌ民族から御馳走されたとされています。

16 朝日町郷土資料室
あさひちょうきょうどしりょうしつ

朝日町の郷土資料を収蔵展示されている施設。知恵の蔵委員を中心とした地元の方々の手によって活動が支えられています。※月・火開館

17 朝日サンライズホール
あさひさんらいずほーる

各種コンサートや舞台が開催されているほか、館内の一角には、開拓当時の様子を再現したジオラマが展示されています。

18 旧佐藤医院
きゅうさとういいん

大正14（1925）年に開業し、昭和5（1930）年から現在の建物に移転、長きにわたり地域医療を支えました。閉院後、医院の建物は「あさひ 郷土の資源を活かす会」によって保存・活用されています。

19 瑞穂獅子舞伝習館
みずほししまいでんしゅうかん

朝日町に伝わる伝統芸能「瑞穂獅子舞」（市指定文化財）の練習拠点となっている施設です。

※施設内部は一般公開していません。
ご用の際は朝日支所地域教育課までお問い合わせください。

20 みずほ公園
みずほこうえん

敷地内に高くそびえる石灰岩の巨石は、通称「9線のガンケ」と呼ばれており、洞穴遺跡となっています。

21 岩尾内ダム
いわおないだむ

かつてこの場所には似峡の集落があり、豊かな森林資源によって木材産業の基地として中央部には市街地が形成されていました。昭和45（1970）年にダムの完成とともに、湖底に沈みました。

22 天塩岳
てしおだけ

北見山地の最高峰（標高1,558m）。この山を源流とする天塩川は、人々の生活やまちの発展に欠かせない豊富な水の恵みをもたらしています。

23 屯田兵家族上陸の碑 （石碑・看板）
とんでんへいかぞくじょうりくのひ

士別に入地する屯田兵とその家族は、列車で和寒まで入り、その後歩いて士別に向かいましたが、子ども・婦人・高齢者などは、丸木舟に乗って剣淵川を下り、この地点で上陸しました。

24 水田発祥の地 （標柱）
すいでんはっしょうのち

明治33（1900）年、屯田兵山畑弁次郎や角田繁蔵が、給与地が湿地であることを利用して水田を作り、水稲の試作を始めました。

25 開拓記念公園
かいたくきねんこうえん

兵村開拓記念碑 （石碑）
へいそんかいたくきねんひ

屯田兵の開拓の苦労をしのび、その功績をたたえるために建立されました。

屯田兵練兵場跡 （看板）
とんでんへいれんぺいじょあと

屯田兵は午前中にこの場所で軍事訓練を受け、午後には家族とともに開墾作業に励むといった日常を過ごしました。

26 屯田兵射的場跡 （標柱）
とんでんへいしゃてきじょうあと

九十九山の北側に設けられ、屯田兵の射的演習に使われました。

27 つくも山・士別神社
つくもやま・しべつじんじゃ

屯田兵100戸の入地後まもなく1戸が火災にあい、99戸になったことに因んで「九十九（つくも）山」と名付けられました。士別神社は、屯田兵が入地し、練兵場に開村記念標を建てて天照皇大神を祀り、7月15日に入隊式を行ったのが始まりとされています。

28 大野家住宅主屋（旧大野組事務所兼主屋）
おおのけじゅうたくしゅおく

昭和2（1927）年に建てられた代々建設業を営む旧家の事務所兼住宅。和風民家への洋室導入の有り様を伝える上質な建物となっています。国登録有形文化財。

※現在、内部は一般公開していません。

29 屯田兵第5中隊本部跡 （標柱）
とんでんへいだいごちゅうたいほんぶあと

現在の大通り東1丁目には、練兵場付近の便利な場所として、中隊本部や官舎、倉庫など中隊本部関係の施設が建てられました。

30 屯田兵第5中隊長の官舎敷地跡 （標柱）
とんでんへいだいごちゅうたいちょうのかんしゃしきちあと

31 山崎永太翁顕彰碑 （石碑）
やまざきえいたけんしょうひ

山崎永太は、農業の発展・振興に尽くした人物です。水稲品種の改良に努め、「温床育苗」を完成させるなど、寒冷地域の稲作に多大なる影響を与えました。

32 徳富蘆花歌碑 （歌碑）
とくとみろかかひ

明治の文豪 徳富蘆花が明治43（1910）年の北海道旅行の途中、車窓から眺めた剣淵～士別の情景について詠んだ歌が刻まれています。

33 藤島慶五郎彰功碑 （石碑）
ふじしまけいごろうしょうこうひ

藤島慶五郎は、明治36（1903）年に士別に入地し、現在の下士別に澱粉工場を建設、士別の澱粉産業の礎を築きました。

※玉運寺の境内に建立されています。

34 丸武児童公園
まるたけじどうこうえん

明治44（1911）年、西條武平の私費を投じ、当時「丸武運動場」という名前で作られた公園。武平は荒物卸売業を営み、農場経営や劇場開設など、地元の名士としてまちの発展に貢献しました。

35 士別駅前倉庫群
しべつえきまえそうこぐん

明治末期から大正のでんぷん景気の頃、士別は中間集散地として倉庫業が盛況で、レンガ造りや石造りの倉庫が次々と建てられました。

発行日：令和3(2021)年3月
発行元：みんなの博物館魅力発信委員会
（事務局：士別市立博物館）
士別市西士別町2554番地
TEL/FAX：0165-22-3320

令和2年度 文化庁 地域と共働した博物館創造活動支援事業の補助を受け作成